

愛が生み出す奉仕の力

創世記二九章――20節

こうしてヤコブはラケルのために七年働いた。彼女を愛していたので、それはほんの数日のように思われた。(20)

井戸で出会ったラバンの娘ラケルに一目惚れしたヤコブは、ラバンのもとで働くその報酬としてラケルを妻にくださいと申し出ます。ラバンはそれを了承し、ヤコブはラケルのために七年間働くことになりました。七年間も待たされるのかと私たちは思いますが、ヤコブのほうは「彼女を愛していたので、それはほんの数日のように思われた」というのです。これは、主イエスに仕える私たちキリスト者にも当てはまります。愛のあるところ、労苦は喜びとなります。主イエスに対する愛は、苦しみをいとわない奉仕の力を生み出します。復活の主が、ペトロにもう一度使命を与えられたときに問われたのもこのことでした。「ヨハネの子シモン、私を愛しているか」(ヨハネ二一17)。ラケルのために苦勞をものともせず働くヤコブの姿が、主イエスのために働く私たちの姿となりますように。